

～社会的責任と企業価値向上を目指す～

環境経営構築サービスのご案内

地球温暖化防止や環境負荷の低減といった企業の環境保全活動は、もはや特別な活動ではありません。これからの企業は、持続可能な環境保全活動を推進しつつ、さらに厳しい企業間競争を勝ち抜いていく必要があります。そのためには環境と経営が一体となった仕組み作りを早急に構築すべきと考えます。

環境活動の誤った認識

従来の環境対策では継続的な発展ができない

- ◆ 環境対策にはお金がかかるという認識
⇒投資に対するリターンといった視点が欠如している
- ◆ 法律があるから対応するという受け身の姿勢
⇒消費者の環境に対する注目度の高まりに対応できない
- ◆ 環境対策は最低限のレベルで十分という思考
⇒排出権取引・環境税導入など、悪影響の度合いに応じてコスト負担が増える仕組みに追い付かない

継続的な環境活動の限界

競争力低下

企業の利益に影響

従来の環境対策から環境経営へのステップアップが、企業の継続的発展につながります

環境経営実現における期待効果

効果1:さらなる環境負荷低減

- ◆ 業務機能範囲の拡大
- ◆ サプライチェーンへの拡大

効果2:コスト削減

- ◆ 業務機能範囲の拡大
- ◆ 環境会計の導入

効果3:売り上げと利益の向上

- ◆ エコプロダクツ製品開発
- ◆ 環境会計の導入

効果4:社会的信頼の獲得

- ◆ 環境報告書のアップグレード
- ◆ 社会貢献活動の拡大

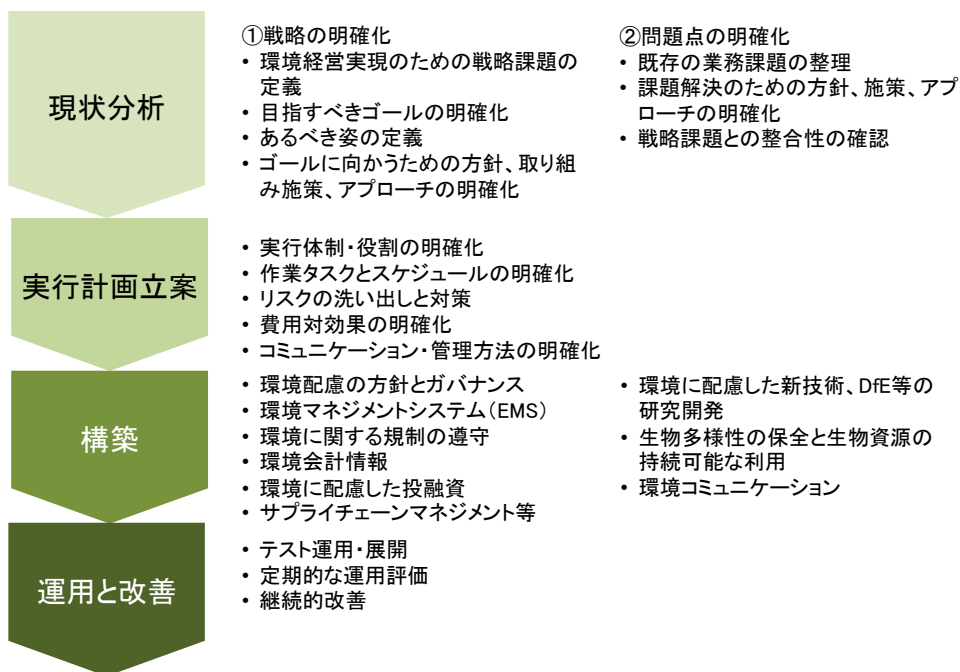


環境経営実現のための視点

環境経営実現のための視点としては以下の9つがあります。それぞれの視点を考慮し、環境経営を行うことで、環境と経営を両立できる仕組みができます。

No	視点	実現すべき内容
1	環境配慮の方針とガバナンス	経営方針として、環境配慮の活動が明確にし、ガバナンスの仕組みを作る
2	環境マネジメントシステム (EMS)	必要な拠点にEMSの仕組みを導入し、管理プロセス・運用プロセスを確立させ、PDCAサイクルを回す
3	環境に関する規制の遵守	法規制に対応するプロセス及び、モニタリングや違反時の対応を適切に行う
4	環境会計情報	環境保全コスト・環境保全効果・環境保全対策に伴う経済的効果を把握し、経営に生かす
5	環境に配慮した投融資	投融資を行う場合に、方針や目標、計画を明確にする
6	サプライチェーンマネジメント等	取引先・製品の選定、情報伝達(トレース)、取引先との協調が機能し、環境に配慮した活動を、サプライチェーン全体で行う
7	環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発	環境に配慮した研究開発の運用プロセス・管理プロセスを確立させ、PDCAサイクルを回す
8	生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用	生物多様性について、方針や目標、計画を明確にする
9	環境コミュニケーション	各ステークホルダーに対し、コミュニケーションを行うための運用プロセス・管理プロセス確立させ、PDCAサイクルを回す

環境経営実現までのステップ



[お問い合わせ先]

株式会社シスウェイ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号 東京サンケイビル15階

TEL : 03-6262-3621

Email:sales@sysway.co.jp

URL:http://www.sysway.co.jp/